

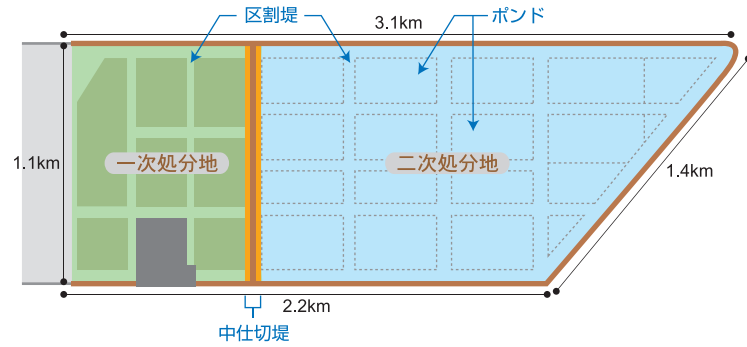


堺第7-3区の概要

堺第7-3区埋立処分地について

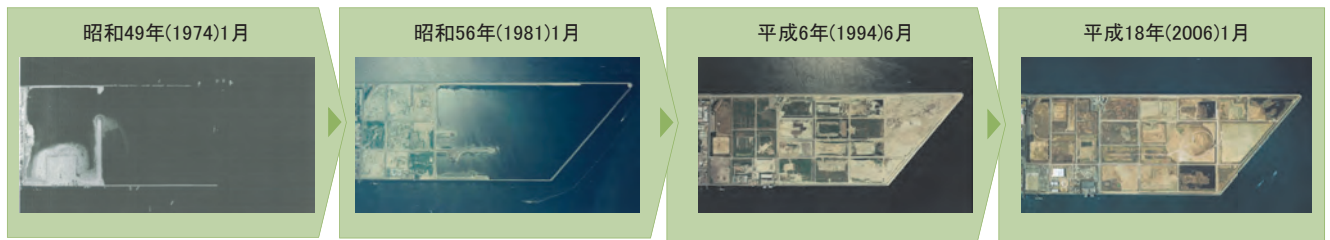
1 埋立処分地の大きさ

- 面積 約280ha ※甲子園球場の約70倍
 - 一次処分地 約80ha
 - 二次処分地 約200ha



2 埋立処分事業の経緯(財大阪産業廃棄物処理公社が実施)

- 昭和46年(1971)2月 財大阪産業廃棄物処理公社の設立(出資団体 大阪府、大阪市)
- 昭和49年(1974)2月 埋立処分事業の開始
- 昭和56年(1981)6月 一次処分地海面埋立終了
- 平成6年(1994)3月 二次処分地海面埋立終了、陸上埋立に移行
- 平成16年(2004)3月 産業廃棄物受入終了、土砂のみの受入に移行
- 平成16年(2004)3月 一次処分地処分場廃止
- 平成18年(2006)2月 土砂受入終了
- 平成18年(2006)3月 財大阪産業廃棄物処理公社解散、処分場は大阪府が譲受け

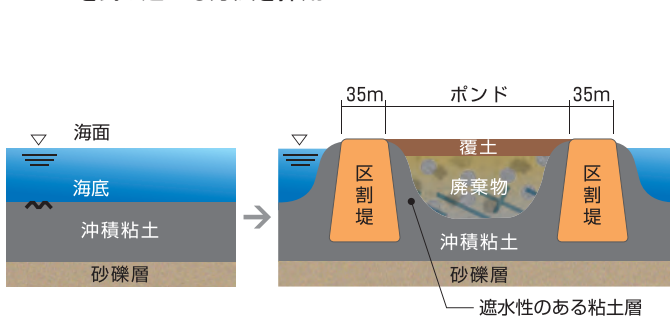


3 埋立処分量及び埋立処分の方法

- 埋立処分量 約4,977万トン(産業廃棄物 約4,529万トン、土砂 約488万トン)※京セラドームの約26倍(体積比)
- 地域別搬入量 大阪市域(約2,630万トン)、南大阪地域(約1,712万トン)、東大阪地域(約483万トン)、北大阪地域(約152万トン)
- 産業廃棄物の種類別処分量(主なもの)
 - がれき類約2,964万トン、鋳さい約632万トン、汚泥固化物等約496万トン、汚泥約283万トンなど
- 埋立処分の方法

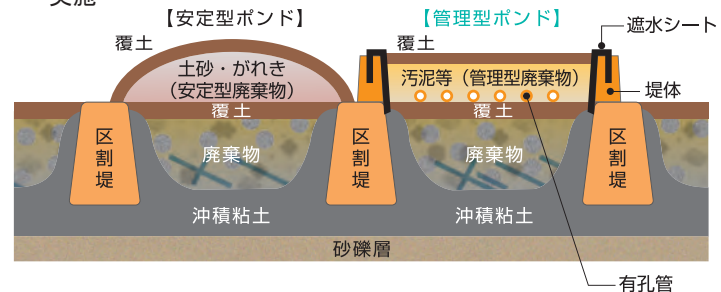
<海面埋立処分>

幅約35mの区割堤(土砂・がれきにより築造)で仕切られたポンドごとに、海底の沖積粘土層を有効に利用して廃棄物を封じ込める方法を採用



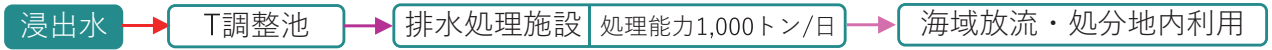
<陸上埋立処分>

管理型と安定型のポンドを区分し、管理型の区域では、沖積粘土と遮水シートにより廃棄物からの浸出水を有孔管により集め、排水処理施設で処理後、海域への放流や処分地内での水利用を実施

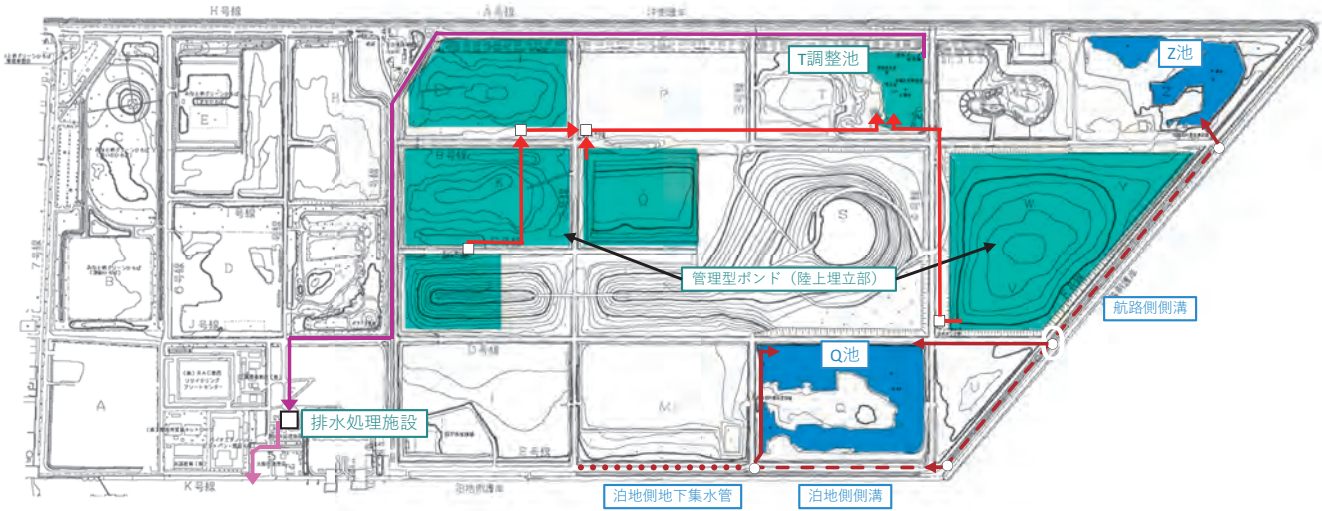
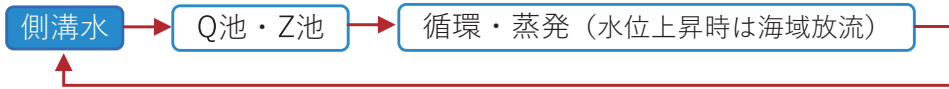


4 水処理の流れ

- 浸出水の処理(陸上埋立管理型ポンドからの浸出水)



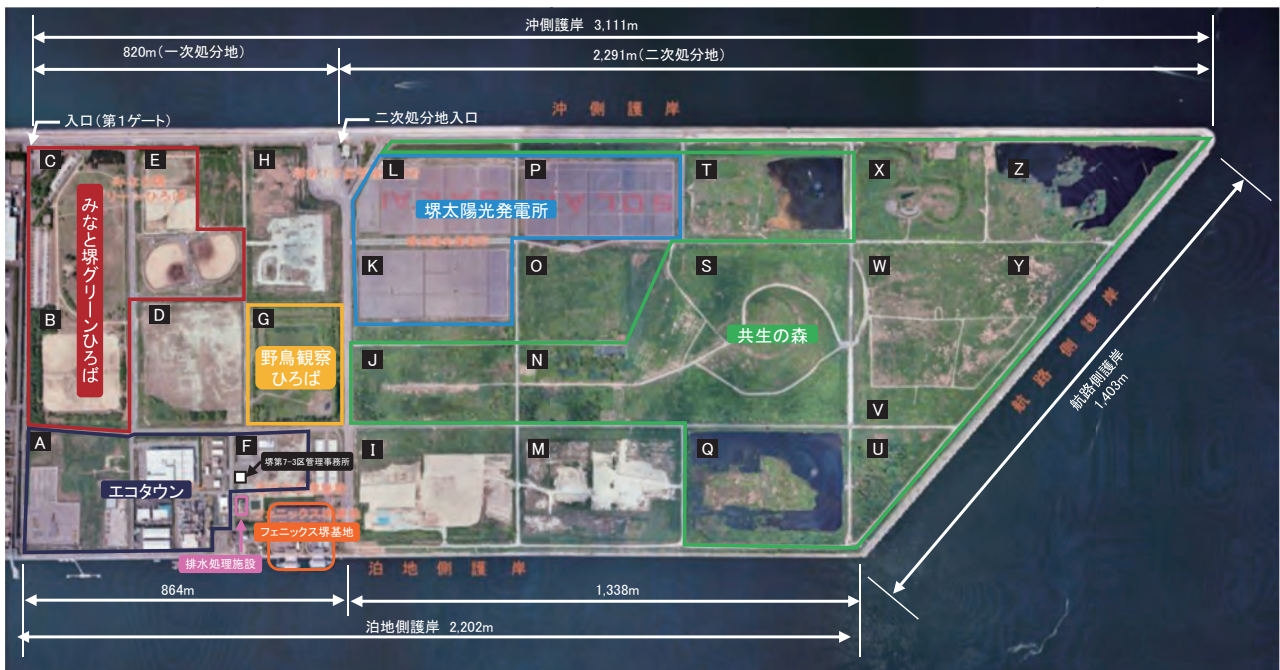
- 側溝水の処理(航路側・泊地側側溝水[区割堤を經由した雨水])



5 土地利用

平成20年(2008)8月に堺第7-3区土地利用基本構想を策定し、地域との共生、自然共生社会、循環型社会、低炭素社会の構築に資する活用や環境学習の場として提供しています。なお、二次処分地については、処分場廃止手続き完了まで暫定的に利用しています。

- 一次処分地
 - みなと堺グリーンひろば及び野鳥観察ひろば(堺市運営)
 - エコタウン
 - 大阪湾広域臨海環境整備センター(フェニックス)堺基地 など
- 二次処分地
 - 共生の森 (約100ha)
 - 堺太陽光発電所 (約21ha) など



主なスポット紹介

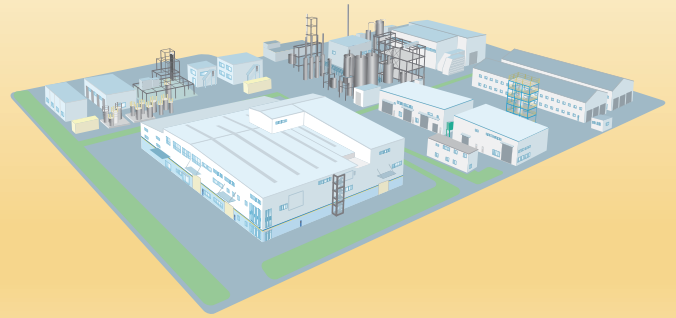
● 堺太陽光発電所

平成23年(2011)9月に全面運転開始
発電出力10MW



● エコタウン

平成17年(2005)7月に「大阪府エコタウンプラン」
を策定し、民間事業者による廃棄物処理・リサイ
クル施設が立地



● 共生の森

平成13年(2001)12月に都市再生プロジェクト(第三次決定)に採択され、府民、NPO、企業など多様な
主体との協働により、森林・ビオトープ空間などの自然環境を創出再生する取り組みを実施

(春)
植樹祭



(夏)
草刈作業



(秋)
野鳥観察



(冬)
森林整備



大阪府

環境農林水産部 循環型社会推進室 資源循環課

〒559-8555 大阪府大阪市住之江区南港北1-14-16

Tel.06-6210-9562 Fax.06-6210-9561

堺第7-3区管理事務所(資源循環課分室)

〒592-8331 大阪府堺市西区築港新町4-4-1

Tel.072-243-0990 Fax.072-243-0993

